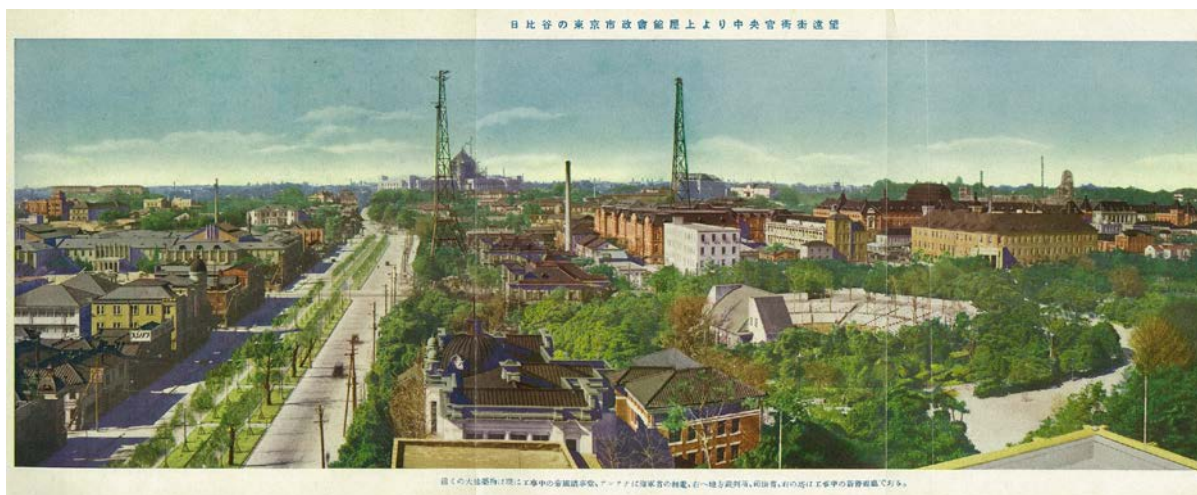


市政会館開館 90 周年記念 資料展示会 「図書資料で読み解く市政会館・日比谷公会堂」



市政会館屋上より中央官庁街遠望
「震災ヨリ復興へ」、1930. より

2019 年 10 月 18 日(金) - 12 月 6 日(金)

9:30 - 17:00 (土曜・日曜・祝日：休館)

会場：市政専門図書館 展示コーナー

<市政会館>

1. 「東京市政調査会館競技設計図集」

東京市政調査会編 1923.06.

本財団は設立にあたり、故安田善次郎氏の遺志による寄附を受けたが、その時の条件の一つが、公会堂（建設後に東京市へ管理を委ねる）を附設した会館を建設することであった。本財団は、8 名の建築士を指名選抜し、会館・公会堂の設計を懸賞競技に付した。本書は、第一等に選ばれた工学博士・佐藤功一氏の案をはじめ、18 種の設計案の配景図・立面図・平面図等を収録している。

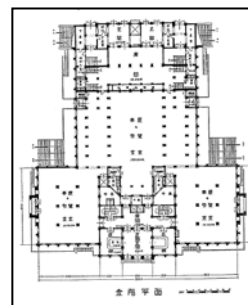
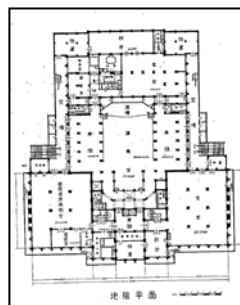


東京市政調査会館設計図一等当選配景図
（「東京市政調査会館競技設計図集」より）

2. 「市政会館及日比谷公会堂建築工事概要」

東京市政調査会編 [1929.]

1929（昭和4）年10月に竣工した市政会館・日比谷公会堂の建築工事概要である。竣工時の外観・内観の写真および平面図も収録している。



一階及び地階平面図

（「市政会館及日比谷公会堂建築工事概要」より）

3. 「東京市政調査会四十年史」

東京市政調査会編 1962.04.

本財団創立から40年間の歴史を記述した年史。財団設立の経緯やその運営を概観する第1編と、財団の調査研究・図書館・出版の各事業の活動の紹介、東京市(都)に対する政策提言、全国都市問題会議の運営等の実践活動をまとめた第2編からなる。のちに六十年史、八十年史も刊行している。右は、本書に収録されている市政会館定礎式での記念写真である。後藤会長をはじめ、当時の財団理事者らが写っている。



(左から) 前田専務理事、松木幹一郎理事、安田善次郎、後藤会長、岡実理事、佐野利器理事、宮島幹之助理事、佐藤功一(会館設計者)、清水一雄(会館建築請負者)

<佐藤功一と佐野利器>

4. 「佐藤功一博士」

田辺泰編・猪野勇一編 彰国社 1953.06.

本書は、建築家・佐藤功一博士が大正から戦前期に設計した233件の作品の中から代表的な建物を写真と図面で紹介したものである。関東大震災後、東京が復興の最中、都市景観に配慮した市政会館及東京市公会堂(現 日比谷公会堂)やマツダビルディング等は、博士の全盛期に設計された建物である。



佐藤功一

佐藤功一の主な執筆論文

- 「都市の住居問題」、『建築雑誌』378号 1918.06.
- 「議院建築懸賞図案観覧記」、『建築雑誌』396号 1919.12.
- 「住宅の近代的傾向」、『建築雑誌』538号 1930.10.
- 「東京の建築を回想して」、『都市美』12号 1935.06.
- 「街の美観論」、『都市美』13号 1935.12.
- 「忠霊塔の図案設計に就て」、『都市美』29号 1935.12.
- 「建築と陶瓷」、『建築雑誌』617号 1936.10.
- 「都市美の種々相」、『都市問題』25巻1号 1937.07.

佐藤功一の言葉(「街の美観論」, 『都市美』13号 1935.12.より)

市政会館塔上より(眺める)・・・この俯瞰の美は世界の他の都市に比して敢えて劣るまいと思ったのである。併し之は、都市の総合美であって私の述べる処の「街の美観」と云う事は上から眺めた美ではない・・・街に立って眺めるのを申すのである。

佐藤功一が設計した建築物(「佐藤功一博士」より)



マツダビルディング

(現存せず。跡地は現在の東急プラザ銀座)



広島赤十字病院



栃木県庁舎



ホテルテイト(旧・帝室林野局庁舎)

(現存せず。場所は東京都千代田区)



駒澤大学講堂

5.「建築家・佐藤功一と都市への視線、あるいは近代の視線—東京市政調査会及東京市公会堂、早稲田大学大隈記念大講堂を中心に」

米山 勇著 東京都歴史文化財団、東京都江戸東京博物館 1997.03.

本書は、佐藤功一博士の設計した現存遺構の一つである市政会館及東京市公会堂（現 日比谷公会堂）と早稲田大学大隈記念大講堂を事例に、日本近代建築において都市の美観に注目した博士の特質を明らかにしようとするものである。

6.「佐野利器」

佐野博士追想録編集委員会編 1957.11.

佐野は、本財団設立当初は会館の建築担当の理事であり、1927(昭和 2)年から会館が完成する 1929(昭和 4)年 10 月まで常務理事であった。1947(昭和 22)年 5 月 28 日から逝去する 1956(昭和 31)年 12 月 5 日まで副会長を務めた。本書は、佐野の没後、その功績を広く伝える目的で田邊定義(当時の東京市政調査会専務理事)らほか 10 名の有志によって刊行された。前田多門(当時の本会会長)ら佐野とゆかりのある方々による 50 余篇の追悼文のほか、多数の写真、佐野による述懐、主な著書・論文一覧などが所収されている。



【左】佐野利器

【右】佐野利器と都市研究会の人々
後列左から四人目 佐野利器
前列左から四人目 後藤新平
前列右から一人目 池田宏

(「佐野利器」より)

<公会堂>

7.「東京都日比谷公会堂御案内」

東京都公園協会編 1957.

日比谷公会堂では度々改修工事が行われたが、1956(昭和 31)年度に数欠にわたる大改修計画が立案された。本パンフレットはその最初の工事である舞台設備の改装直後に刊行されたもので、公会堂の概要や館内間取図のほか改装された設備に関する記述がある。



8.「日比谷公会堂：写真で見る 70 年のあゆみ」

東京都日比谷公会堂編 1999.11.

日比谷公会堂周年事業の一環として刊行されたもの、およびその付属資料である。公会堂の歴史や概要、コンサートなどの開催実績や主なエピソード、著名人による寄せ書きなどを収録する。

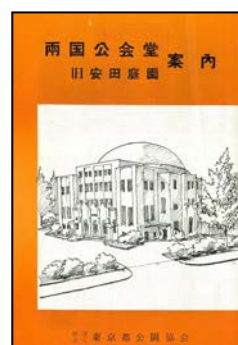
- ・「日比谷公会堂その 30 年のあゆみ」 東京都編 1959.10.
- ・「日比谷公会堂その 50 年のあゆみ」 東京都日比谷公会堂編 1980.02.
- ・「[日比谷公会堂開設 80 周年記念関係資料]」 [日比谷公会堂編] [2009.02.-10.]
- ・「日比谷公会堂想い出エピソード：開設 80 周年記念事業」
日比谷公会堂開設 80 周年記念事業実行委員会編 [2009.02-10.]
- ・「日比谷公会堂 1929-2009：80 年の歴史と伝統」
日比谷公会堂「開設 80 周年記念事業」実行委員会事務局編 2010.11.



9.「両国公会堂旧安田庭園案内」

東京都公園協会編 [1956-1961]

1922(大正 11)年、故安田善次郎の遺志により、安田家は本所横綱町の本邸宅地及び建物一切を東京市に寄贈した。同宅地は関東大震災後に整備され、旧安田庭園として開園した。また、庭園内には安田善次郎の寄付金をもとに東京市政調査会が本所公会堂を建設した。同公会堂は区立の本所公会堂ができた際、混同を避けるため両国公会堂と改称した。



10. 「両国公会堂の歩みとその活用可能性の検討調査報告；両国公会堂実測調査報告書」

[東京都] 墨田区企画経営室政策担当編 2008.03., 2013.03.

両国公会堂は1926（大正15）年、東京市政調査会によって建設された。完成直後に東京市長へ引き渡され、1967（昭和42）年に都から墨田区へと移管された。移管後大改修を行い多目的な文化施設として利用されたが、老朽化が著しくなったため、2006（平成18）年策定の墨田区基本計画において両国公会堂の廃止が決定した。

11. 「岩手県公会堂竣工90周年記念誌：公会堂レチタティーヴォ」

岩手県公会堂指定管理者希望橋グループ編 2018.03.

1924（大正13）年、当時の岩手県知事牛塚虎太郎が皇太子殿下（のちの昭和天皇）御成婚記念事業として岩手県公会堂の建設を発案した。建設計画は県議会でも可決され、1925（大正14）年着工、1927（昭和2）年に完成した。建物の設計は、日比谷公会堂などを手掛けた佐藤功一が担当した。



12. 「公会堂建築」

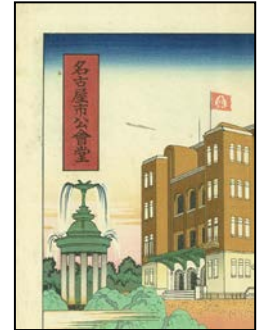
佐藤武夫著 相模書房 1966.03.

著者の佐藤武夫は市庁舎や公会堂を多数設計した建築家である。本書では、自身の経験をもとに公会堂建設にあたっての留意点や必要とされる設備、公会堂の管理運営方法等について述べている。

13. 「名古屋市公会堂」

名古屋市役所編 1933.05.

名古屋市公会堂は昭和天皇御成婚記念事業として1927（昭和2）年に着工し、1930（昭和5）年に完成した。建設費は市有地売却代金と、一般からの寄付で賄われた。本書では名古屋市公会堂の建設概要、間取り、設備、館内施設などが紹介されている。



14. 「大阪市中央公会堂50年誌」

大阪市教育委員会社会教育課編 1968.11.

大阪市中央公会堂は、株式仲間岩本栄之助による当時の金額で100万円の寄付金により建設された。1913（大正2）年に着工し、5年の工期を経て1918（大正7）年完成、同年11月に開館した。本誌は公会堂開館50周年を記念して刊行され、中央公会堂の歴史や岩本栄之助の伝記などが記されている。



【左】完成当時の公会堂（1918（大正7）年10月）

【右】岩本栄之助

公会堂建設のため、当時の金額で100万円を寄付した。

（「大阪市中央公会堂50年誌」より）

15. 「中之島・公会堂：よみがえる都市の鼓動」

大阪都市環境会議編 都市文化社 1990.05.

1988（昭和63）年、大阪市による中之島公会堂（正式名称大阪市中央公会堂）の「永久保存」が決定した。決定後、公会堂の保存方法をめぐり市民団体や有識者による集会や討論会が相次いで開催された。本書にはこれらの集会で出された意見や公会堂の歴史と現状に関するレポート、著名人による寄稿などが収められている。



16. 「公会堂と民衆の近代：歴史が演出された舞台空間」

新藤浩伸著 東京大学出版会 2014.11.

本書は現在の市民ホールや文化会館の前身といえる「公会堂」に着目し、近代日本における公会堂の意義や役割を「公会堂の設立経緯」や「公会堂での催事の実態」をもとに考察する。研究対象として当時の日本を代表する集会・娯楽施設であり、催事の資料が多数残存している日比谷公会堂を取り上げる。

<戦前期建築（復興建築）歴史的建造物>

17.「建築の東京：大東京建築祭記念出版」

都市美協会編 不二出版 2007.11.

関東大震災後の復興において、バラック建築物にかえて耐震耐火でかつ美観を保つ建築物を広めようという目的で、大東京建築祭が1935年6月に日比谷公会堂にて開催された。本書はこの建築祭の一環として刊行されたものである。

震災以降の東京の建築を主題として募集した懸賞写真や、東京市や新聞社などから提供された写真、佐藤功一氏らの建築に関する論文などが収録されている。

18.「都市美」No.12 建築文化奨励号、「都市美」No.13 建築祭報告号

都市美協会編 1935.06,12.

建築祭の開催意義や、東京の建築文化を回顧・展望する論文などを収録した建築文化奨励号と、佐藤功一や石川栄曜らによる座談会『東京の建築を語る』などを収録した建築祭報告号である。



梶原熊太郎「ビルの窓から」（「都市美」No.13 より）

1935（昭和10）年、「大東京建築美増進並建築文化普及」を目的として都市美協会主催による「大東京建築祭」が開催された。同建築祭では「東京の建築」をテーマに懸賞写真の募集も行われた。左は「ビルの窓から」と題された市政会館を被写体とした応募作で、準特選三席に選ばれた。

19.「大東京建築祭建築設計競技 銀座街共同建築」

都市美協会編 洪洋社 1935.09.

当時の銀座における商店建築は、防火地区に指定されているにも関わらず木造が多く、小地割の敷地に独立して建てられていた。これを改良すべく商店街共同建築の設計を懸賞競技し、入選した設計図面を本書に収録する。共同建築による美観の達成と、そこに入居する多数の小店舗がもたらす魅力による一層の繁栄を期待している。



一等 伊藤義次氏作 透視図

（「大東京建築祭建築設計競技 銀座街共同建築」より）

20.「復興建築の東京地図：関東大震災後、帝都はどう変貌したか（別冊太陽） （太陽の地図帳；010）」

平凡社 2011.11.

帝都復興事業を豊富な図版と共に分かりやすく解説。現存する復興建築を地図と写真で紹介しながら訪ね歩く。貴重な都市資産を失った悔悟の念を込めて、“失われた復興建築100選”も掲載する。



21.「明石小学校の建築：復興小学校のデザイン思想」

藤岡洋保監修 東洋書店 2012.11.

東京都中央区の明石町にあった明石小学校の旧校舎は、1926年に復興小学校のひとつとして建てられ、2010年に解体された。本書では、明石小学校の歴史を振り返りながら、関東大震災の復興事業としての復興小学校の意義、校舎のデザインについて考察している。

22.「図面で見える復興小学校：現存する戦前につくられた東京市の鉄筋コンクリート造小学校」

復興小学校研究会編 2014.03.

関東大震災の復興事業として建設された復興小学校は117校、震災前後の時期に鉄筋コンクリート造に建て替えたものも含めると170校あるという。本書では現存する復興小学校14校と、現存する戦前期につくられた東京市の鉄筋コンクリート造小学校14校の、写真と図面を掲載する。これら小学校校舎に共通する特徴や設計思想と、校舎ごとの差異を読み取ることができる。

23. 「ここだけは見ておきたい東京の近代建築. 1 : 皇居周辺・23 区西部・多摩」

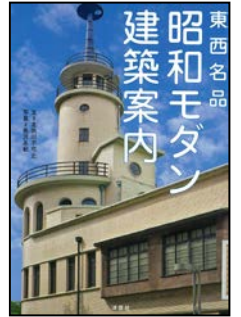
小林一郎著 吉川弘文館 2014.07.

明治以降に建てられた現存する近代（西洋）建築物を、写真や図面とともに、設計者の意図や建物の特徴、歴史などをわかり易く解説する。古い建物が次々と姿を消していく中で、残っているこれら建物の美学をぜひとも見てほしいとする。市政会館・日比谷公会堂が紹介されている。

24. 「東西名品 昭和モダン建築案内」

北夙川不可止 文・黒沢永紀 写真 洋泉社 2017.02.

建築の百花繚乱の時代であるとする大正末から昭和初期に建てられ、かつ現存する建物を紹介する。大衆文化が花開いたこの時代の建物の、設計の意図や時代背景、地域での役割について解説する。市政会館は時計塔に焦点をあてて紹介されている。



25. 「街・明治 大正 昭和 : 絵葉書にみる日本近代都市の歩み 1902-1941. 第2巻 関東編」

尾形光彦[編]・村松貞次郎監修 都市研究会 1980.11.

1902（明治 35）年から 1941（昭和 16）年代にかけて、日本全国の都市の建物と通りを対象として、絵葉書写真 3,500 枚を全 5 巻に収録する。第 2 巻は東京が 395 枚、関東全体で 658 枚を収録。関東大震災や戦災により消失する以前の建物の写真が多い。

26. 「都市の記憶 : 美しいまちへ」

鈴木博之[ほか]著 白揚社 2002.04.

本書では明治から昭和にかけて建てられた“都市の記憶”を秘めたオフィスビル、博物館、庁舎等の近代建築 40 点以上を、写真付きで紹介している。愛陶家であった佐藤が、陶器材料を本格的に建築に採用した先駆として市政会館・日比谷公会堂が紹介されている。2002 年当時の市政会館のタイル張りエレベーターホールの写真が掲載されている。

市政会館一階のタイル張りエレベーターホール(2002 年当時)。
床面は 2009 年の改装工事により変更された。
(「都市の記憶 : 美しいまちへ」より)



<日比谷公園>

27. 「日比谷公園 改訂版」(東京公園文庫)

前島康彦著 東京都公園協会 1994.03.

日比谷公園は、日本の都市公園史において最初の洋風公園である。林学博士・本多静六らによる日比谷公園造園委員会によって設計され、1903（明治 36）年 6 月開園した。本書は、公園の誕生経緯や公園内の施設などを紹介したものである。

28. 「日比谷公園ものがたり」

東京都公園協会編 1963.11.

本書は、幕末から明治維新にかけての日比谷附近の変遷と、日比谷練兵場跡地が明治 21 年の東京市区改正設計により日比谷公園となるまでの経緯を詳細に解説したものである。

川瀬巴水筆版画(本財団所蔵)
日比谷公園つつじ山と市政会館。1936（昭和 11）年頃の風景。
「日比谷公園ものがたり」に同版画のモノクロ写真が掲載され、
市政調査会創立 25 周年に際し公会堂との合同祝賀の時に参列者に配布されたとする。

